

国保通信 #3



医師会、歯科医師会、薬剤師会の先生方からの、健康よろず話を、3回にわたって紹介します。今回は薬剤師会の奥本 啓さんに伺いました。

問い合わせ 保健医療課 ☎59-2141

ジェネリック医薬品について 大竹市薬剤師会 奥本 啓さん

記号ではなく、商品名を錠剤自体に印刷したり、錠剤のシートの文字を大きくしたりするなどして読みやすくしたもの、何に効く薬か書いてあるなどの工夫をしているものも増えています。

また、ほとんどの目薬には、開封後に日持ちするよう、防腐剤という目薬が傷みにくいようにする成分が入っています。しかし防腐剤は角膜黒目の表面の膜が弱い人にはそれ自体の刺激が強く、特に何種類も目薬を差す人は角膜が荒れて傷つきやすくなります。そこで、特殊なフィルターを液が通過するような構造で防腐剤なしの液を無菌状態で差すことのできる特殊な容器を使った、先発医薬品よりも安全なジェネリック医薬品も存在します。

近年では、オーソライズド・ジェネリック(AG)という先発メーカーが認定した、新薬と原薬・添加物・製造工程までがまったく同じで価格が違うだけのジェネリック医薬品も出ていますので、ジェネリック医薬品に抵抗のある方にはお勧めです。

このように、ジェネリック医薬品も日々進化していますので、知識を深め上手に利用していただきたいです。

⑤ 医療制度が崩壊しないように、現在、日本の医療費の総額は43兆円といわれ、そのうち薬剤費が約5

1

2

3

4-1

4-2

4-3

4-4

4-5

5-1

厚生労働省「2011年度国民医療費の概要」

5-2

分の1の8兆円になり、この10年で20%も増えています。

医療費の大部分は保険料と国や地方の税金で賄われています。

もし生活習慣病の薬をジェネリック医薬品にすれば高血圧症で1794億円、脂質異常症で765億円、糖尿病で582億円の医療費の圧縮ができると言われています。

また、毎日薬を服用していると、

国保通信

必ず昼や夕食後の飲み忘れが出てくるものです。これは人間なら仕方の無いことで、恥ずべきことではありません。

もし薬が余ってきたら、いつももらっている薬局に持ってきてください。薬局では、余った薬の数を確認して、日数を調整していくのも仕事のひとつなのです。

こうした余った薬をこまめに整

格に設定されます。

③ ジェネリック医薬品は先発品と本間に同等なのか?

厳密にいうと、商品として形を作る添加物(結合剤・賦形剤・崩壊剤・滑沢剤など)は、国の基準で認められている成分の範囲内であれば違うものを使用しても問題ないことになっているため、まったく同じではないとも言えます。

しかし、だからといって先発医薬品より品質が劣るという訳ではありません。

④ ジェネリック医薬品の工夫

添加物などの変更で、先発医薬品の欠点を解消し、むしろ先発医薬品よりも優れているものも少なくありません。

例えば、大きくて飲みづらいものを加工技術で小型化したもの、飲みにくいカプセルを錠剤にしたもの、OD錠(口腔内崩壊錠)などの水なしで口の中でラムネ菓子のようになじりやすいものに変更したもの、半分に割ったりしなくて良いように先発医薬品にはない大きさや量に変更したものがありません。

他にも、苦い散剤(こなぐすり)をコーティングして舌に味が伝わらないようにして、さらに苦味を分からなくするような甘味剤などを使用して飲みやすい味付けをしたものもあります。

さらに、間違っただけで飲むことの無いよう、何の薬か判別しやすいように

理することで医療費を年間500億円削減することができると言われています。

お孫さんの世代が高齢になって、この日本の優れた医療制度が崩壊しないよう、薬局ではお手伝いができると思います。

ぜひ、話しやすい、かかりつけの薬剤師さんをつかって相談してみてください。

① 医薬品の分類

日本で売られている医薬品は、大きく分けるとドラッグストアで販売されている市販薬と、医療機関で医師から処方される医療用医薬品になります。そのほとんどは医療用医薬品になります。

さらに医療用医薬品は、先発医薬品と、特許の切れた先発医薬品と同一成分で同等の効果の薬を他の医薬品メーカーが作ったジェネリック医薬品に分かれます。

② 医療用医薬品の開発の流れ

先発医薬品が新薬として商品化されるまでには、15~20年以上の開発期間と100億~数千億円の開発費がかかると言われていました。そのため、新薬を開発した先発医薬品メーカーは、国からの特許によって製造の認可がおりてからその薬を販売する権利を独占し、20~25年間は費用を回収することができます。

この特許期間が満了すると、その薬の有効成分は国民共有の財産という扱いに変わるため、他の医薬品メーカーが先発医薬品メーカーの新薬と同じ有効成分を同量含み、同等の効き目があるという厳しい試験をクリアして、厚生労働省から承認を受けて発売されるものがジェネリック医薬品です。

この場合、開発期間が3~5年、開発費は数億円に済むため、薬の価格は新薬に比べ3~6割安い価

格に設定されます。

③ ジェネリック医薬品は先発品と本間に同等なのか?

厳密にいうと、商品として形を作る添加物(結合剤・賦形剤・崩壊剤・滑沢剤など)は、国の基準で認められている成分の範囲内であれば違うものを使用しても問題ないことになっているため、まったく同じではないとも言えます。

しかし、だからといって先発医薬品より品質が劣るという訳ではありません。

④ ジェネリック医薬品の工夫

添加物などの変更で、先発医薬品の欠点を解消し、むしろ先発医薬品よりも優れているものも少なくありません。

例えば、大きくて飲みづらいものを加工技術で小型化したもの、飲みにくいカプセルを錠剤にしたもの、OD錠(口腔内崩壊錠)などの水なしで口の中でラムネ菓子のようになじりやすいものに変更したもの、半分に割ったりしなくて良いように先発医薬品にはない大きさや量に変更したものがありません。

他にも、苦い散剤(こなぐすり)をコーティングして舌に味が伝わらないようにして、さらに苦味を分からなくするような甘味剤などを使用して飲みやすい味付けをしたものもあります。

さらに、間違っただけで飲むことの無いよう、何の薬か判別しやすいように